

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立海道小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 31人

② 算数 31人

5 留意事項

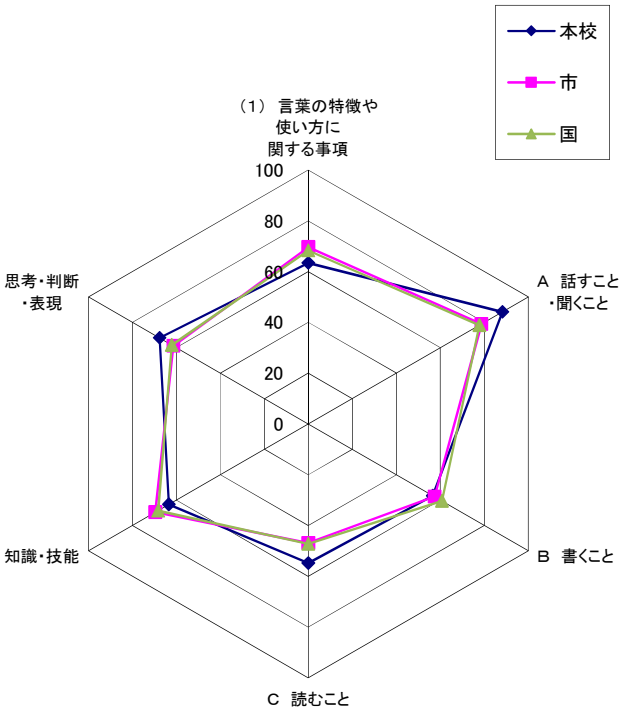
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立海道小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	63.4	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	88.2	78.7	77.8
	B 書くこと	56.5	57.3	60.7
	C 読むこと	54.8	46.9	47.2
観点	知識・技能	63.4	69.6	68.3
	思考・判断・表現	67.7	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

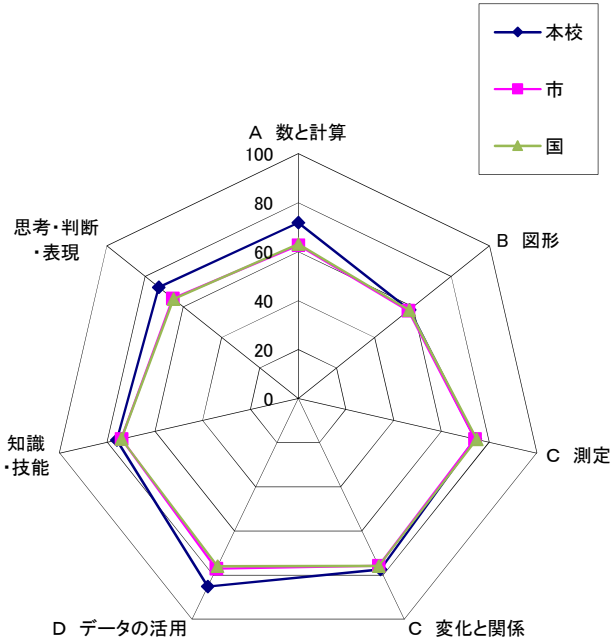
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、63.4%で、全国平均より4.9ポイント低い。 ○修飾語と被修飾語を捉える問題の正答率は45.2%で、全国平均を1.6ポイント上回る。 ●漢字に関する問題と主語と述語の関係を捉える問題は、全国平均をやや下回る。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習では、効果的に練習できるように課題の出し方を工夫するとともに、インプットとアウトプットを計画的に行っていく。 ・熟語の意味や用法を確認しながら学ぶ活動を取り入れ、語彙力を高めていく。 ・主語述語を指定した短作文や、修飾語を活用した文章など、文の構成を学ぶ機会を増やしていくとともに、学校生活や日記などの課題の中で、主語と述語、修飾語と被修飾語の関係を意識した指導を行っていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、88.2%で、全国平均より10.4ポイント高い。 ○「目的や意図に応じ、資料を使って話す」の正答率は100%で、全国平均を19ポイント上回る。「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの内容を考える」については9.6ポイント上回る。	・引き続き、各教科等の授業で、話し合い学習を効果的に取り入れていく。その際、資料の効果的な活用の仕方を指導していく。 ・教科書の「話す・聞く」単元では、聞き取りメモを活用して、話し手の意図を確認しながら聞くことや、自分の考えと比較する活動を設定していく。 ・「海道小スタンダード」を活用して、話し方・聞き方などの学習態度の徹底を図る。
B 書くこと	平均正答率は、56.5%で、全国平均より4.2ポイント低い。 ○「目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」の正答率は、64.5%で、全国平均を7.9ポイント上回る。 ●「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」の正答率は、48.4%で、全国平均を16.4ポイント下回る。	・各教科でのまとめや発表など、自分の考えを書く際には、事実と感想、意見と理由を区別する、文章全体の構成や展開を考える、説得力のある根拠の挙げ方を考える、効果的な資料の使い方を考えるなど、内容が明確で、筋道の通った文章となるよう指導する。 ・視写プリントや作文、日記指導など、日常的に書く機会を多く設け、自分の意図が読み手に伝わるよう意識して文章を書いたり、作文の基本的な表記の仕方を徹底して書いたりするよう指導する。
C 読むこと	平均正答率は、54.8%で、全国平均より7.6ポイント高い。 ○「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」の正答率は、45.2%で、全国平均を15.5ポイント上回る。 ●「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける」の正答率は、38.7%で、全国平均を5.6ポイント上回るものの、低い水準である。	・文章の構成を意識しながら、段落ごとの要点を捉え、内容を的確に押さえるとともに、それらを基に要約する練習を積んでいく。 ・国語の授業だけでなく、各教科等の学習において、資料の読み取りを丁寧に行い、その資料がどのような目的で活用されているか、作者の意図を読み取るように指導する。 ・問われていることが文章の中にあることに着目させ、文章に基づいて記述したり、選択したりする学習を多く取り入れる。

宇都宮市立海道小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	71.8	62.6	63.1
	B 図形	58.1	57.5	57.9
	C 測定	74.2	74.1	74.8
	C 変化と関係	77.4	75.8	75.9
	D データの活用	85.2	77.1	76.0
観点	知識・技能	76.0	74.1	74.1
	思考・判断・表現	72.8	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は71.8%で、全国平均よりも8.7ポイント高い。 ○示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する問題では、平均正答率が96.8%と高く、全国平均を13.8ポイント上回っている。 ○商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し計算する問題では、正答率は61.3%で、全国平均より5.8ポイント高い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・既習内容の復習を朝の学習や宿題等で行い、基礎・基本の確実な定着を図る。 ・文章問題を解く際には、図や数直線等を活用することで、問題の意味を正確に理解できるようにしていく。 ・知識として身につけたことを活用する力を伸ばすために他の領域や教科と関連させた問題を取り上げていく。
B 図形	平均正答率は58.1%で、全国平均よりも0.2ポイント高い。 ○直角三角形の面積の求め方と答えを書く問題では、平均正答率は58.1%で、全国平均を3ポイント上回っている。 ●二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く問題では、平均正答率が41.9%で、全国より4.1ポイント下回っている。	・面積を求める際には、公式を覚えて適用するだけの学習にならないよう求積の仕方を図やデジタル教科書、模型などを用いて、児童が興味関心をもって授業に取り組むことができるようにする。 ・図形を活用する力を伸ばすために、日常生活の中で隠れている図形を取り上げる機会を増やし、身に付けた知識を活用することができるようにする。 ・学び合いの中で児童自身でアイデアを出し合いながら、様々な見方や表現の仕方があることに気づかせる。
C 測定	平均正答率は74.2%で、全国平均より0.6ポイント低い。 ○2つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く問題では、平均正答率は全国よりも11.7ポイント上回っている。 ●ある時刻から一定時間後の時刻を求める問題は、平均正答率が74.2%で、全国より15ポイント低い。	・授業の中で自分の考えを友達同士で発表し合ったり、考えを深め、広げられた後にそれを記述したりする機会を増やしていく。 ・時間は目に見えない量であるため、時間の経過量を模型時計や数直線に表すなどして具体的に捉えることができるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は77.4%で、全国平均よりも1.5ポイント高い。 ○速さと道のりを基に、時間を求める式に表す問題では、平均正答率が90.3%と高く、全国より5.2ポイント上回っている。 ●速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する問題では、平均正答率が83.9%で全国より2.8ポイント低い。	・異種の2つの量の割合として捉える数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察していく学習を取り入れていく。 ・既習の除法や乗法が単位量あたりの考え方に基づいていることを確認するとともに、日常生活の中から問題を作成し、実生活で活用できるような力を身に付けさせていく。

D データの活用	平均正答率は85.2%で、全国平均よりも9.2ポイント高い。 ○棒グラフから、数量や項目間の関係を読み取る2つの問題では、平均正答率は100%であった。 ○集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断する問題では、平均正答率が90.3%で、全国より16.4ポイント高い。	・新聞などを利用して様々なグラフを取り入れ、状況に応じて最適なグラフを選択できるようにそれぞれのグラフの特徴を理解させる。 ・グラフの中から読み取ったことをグループで共有し合い、学び合いを通して多面的な見方があることに気づかせるとともに目的意識をもって取り組むことができるようにする。
----------	---	--

宇都宮市立海道小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか／起きていますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、どちらも県や全国の割合を上回っており、基本的な生活習慣の基盤ができていくことが分かる。今後も家庭と連携を図り、規則正しい生活習慣の育成を継続していく。

○家庭学習に関する質問から、本校の児童は県や全国と比較して家庭学習の時間を十分に確保できており、また、計画的に家庭学習に取り組んでいることが分かった。「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」の質問では、『当てはまる』と回答した割合が県や全国と比較して約10ポイント上回った。引き続き家庭と連携して、家庭学習や学習計画を立てる習慣を身に付けさせ、どのような状況下であっても、自ら計画を立て学びに向かう姿勢を育てたい。

○「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は県や全国の割合を上回り、「人の役に立つ人間になりたい」の質問では肯定的回答が100%であった。また、「自分にはよいところがある」の質問に肯定的回答をした割合は90.7%であり、県や国を大幅に上回っている。今後とも児童の自己肯定感を高める声掛けや指導を行いながら、肯定的な将来の展望を抱ける児童の育成に取り組んでいく。

○学習におけるICTの活用に関する質問では、全ての質問において肯定的な回答の割合が県及び全国を上回った。引き続き、学習場面での活用方法を工夫することで、学力向上を目指していく。

●「国語の勉強が好きですか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、県や全国の割合を上回っており、「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問には全員が肯定的回答をした。しかし、自分の考えを話したり、書いたりすることに関する質問に肯定的回答をした児童は県や全国の割合を下回った。グループワークや発表する場面を増やすことで、自分の考えを話したり、書いたりする力を伸ばしていく。

●「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に全員が肯定的回答をしたのに対し、「算数の勉強が好きですか」の質問で肯定的回答をした児童の割合は県や全国の割合を下回った。児童の興味関心を引きつけるような教材開発をしたり、授業内容と普段の生活を関連付けたりしながら、児童の実態に応じて指導の工夫をしていく。

宇都宮市立海道小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
定着を図るための学習活動の充実	単元及び授業の導入の場などで、前学年までの内容や既習事項を確認する機会を設定したり、視聴覚教材を活用し進んで学習に取り組むような学習活動を工夫したりすることにより、定着を図る。	算数では、すべての領域において正答率が県の平均より高く、全国と比べても「測定」以外の上回っている。
対話的な学びを通して、共に高め合える集団作り	協働的な学び合いを通して、他者の意見や考えに触れ、自分の考えを見直す活動を大切にすることで、深い学びの実現を図る。	児童質問紙調査の「学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝える」では、肯定的回答が90.7%で全国より8.1ポイント高い。しかし、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできている」の肯定的回答は、全国より6.9ポイント低かった。
家庭学習への取組	「家庭学習の手引き」や「家庭学習記録カード」等を活用し、計画的に学習に取り組むよう働きかけをするともに、個別指導により、家庭学習の充実を図る。	「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」の質問では、『当てはまる』と回答した割合が県や全国と比較して約10ポイント上回り、肯定的回答は65.6%であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語「書くこと」の領域において、正答率が全国と比べて4.2ポイント低い。特に、「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」の平均正答率は、48.4%で、全国の平均を16.4ポイント下回っている。	自分の考えを分かりやすく表現する（書く・説明する）力を育成するための言語活動の充実を図る。	授業において、自分の考えや主張を記述する機会を意識的に設けたり、他者の意見に理由を加えて話し合ったりする活動を取り入れることにより、表現力の育成を図っていく。 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する学習を行っていく。 家庭学習等で視写活動を取り入れたり、伝えたいことを明確にし、筋道の通った文章全体の構成や展開を考えながら書いたりする活動を行っていく。